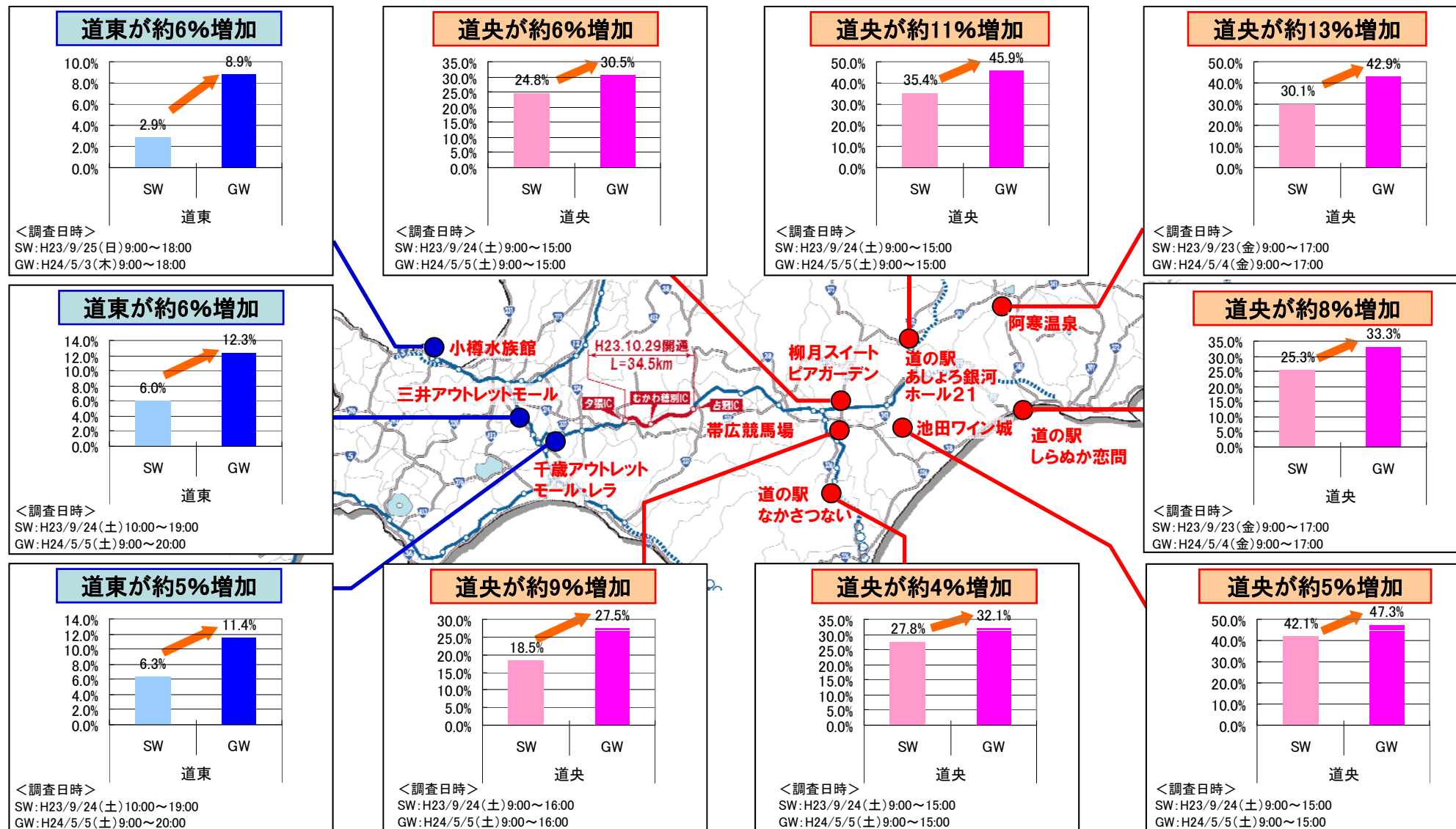


I 圏域間交流の促進(効果① 来訪客割合の増加)

○連休中における道東の観光施設では道央からの来訪客割合が増加。



I 圏域間交流の促進(効果② 観光アクセスの向上)

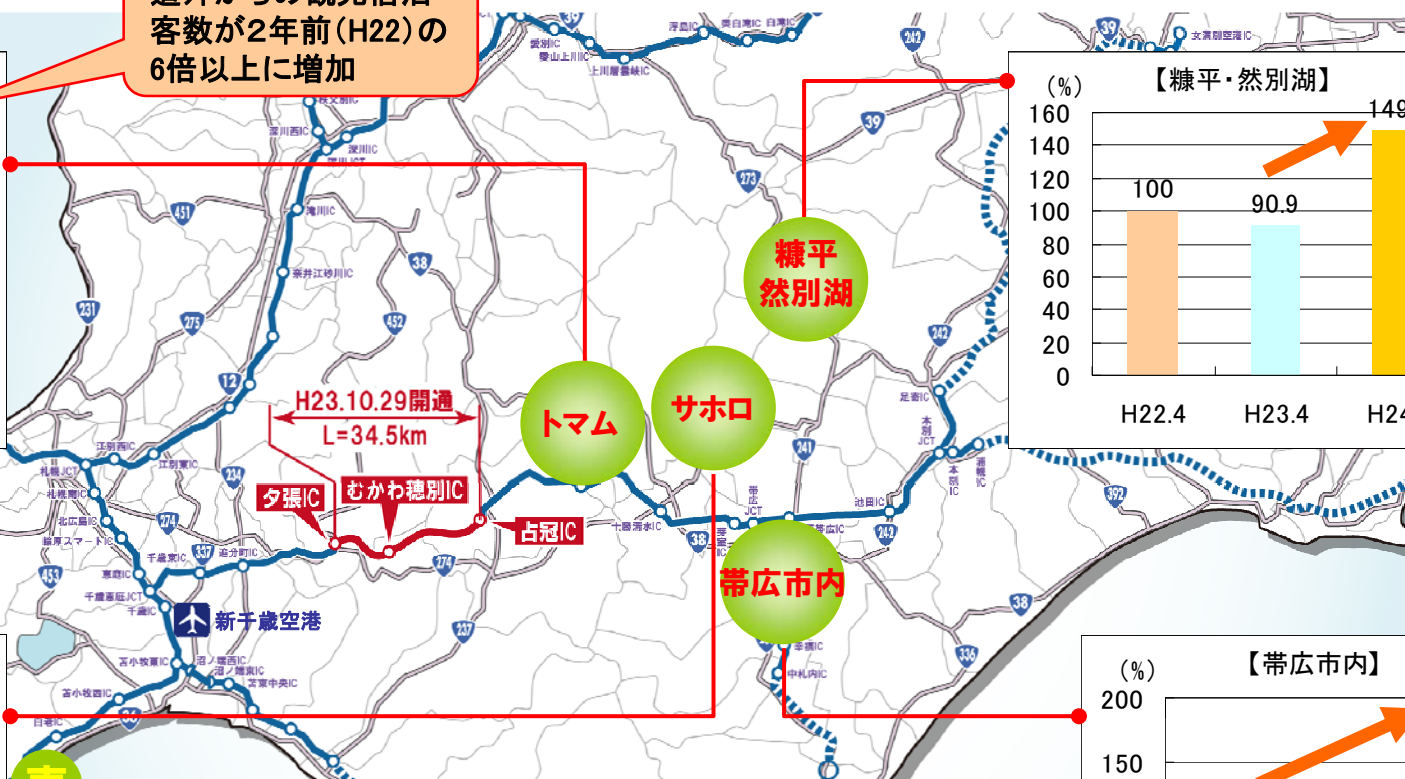
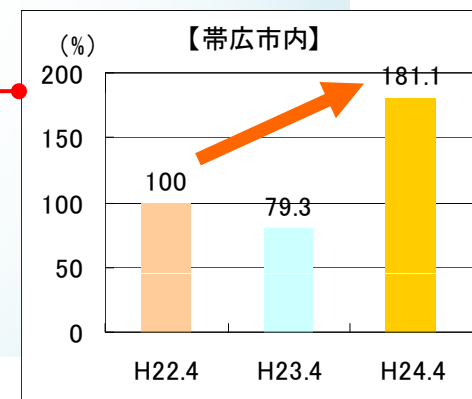
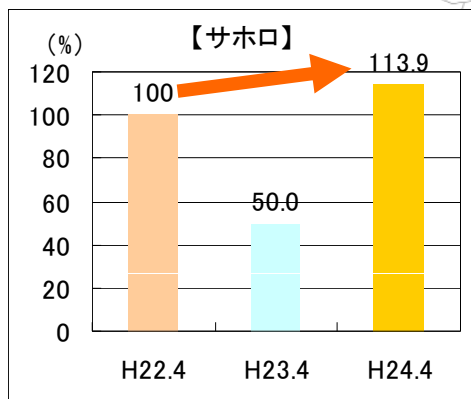
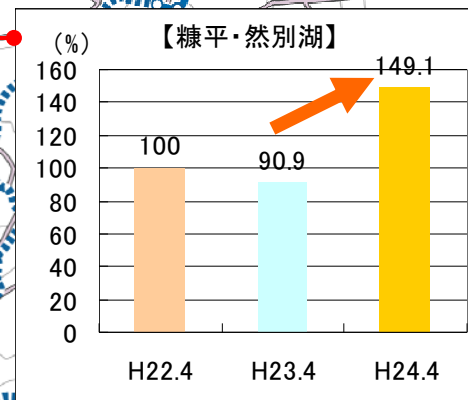
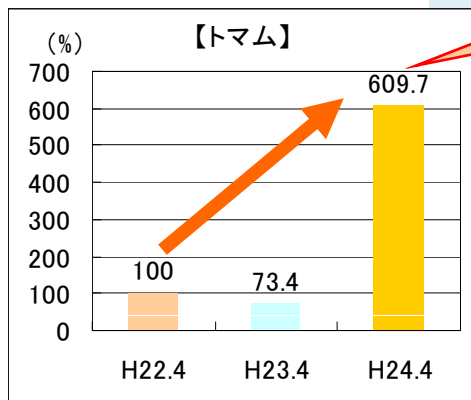
○人気の道東観光では、新千歳空港から道東方面への道外からの観光宿泊者が増加。(旅行代理店A社が取り扱ったツアーデータ)

▼旅行代理店A社が取り扱った開通前後における道外からの観光ツアー客数(宿泊数)の変化

※旅行代理店A社団体観光ツアー実績値(宿泊)をもとに作成(H22.4、H23.4、H24.4)

※H22.4の観光ツアー客数を100%として算出

道外からの観光宿泊客数が2年前(H22)の6倍以上に増加



声

◆観光事業者の声

- ・道東方面と新千歳空港とのアクセスが向上したことにより、道東観光の入り込み増が期待されるのみならず、定番で人気のある道外観光客ツアー全体のさらなる観光入り込み増といった相乗効果が期待できる。
- ・昨年度は東日本大震災の影響により観光客数が減少していたが、今年度の回復に期待している。

参考（交流人口の拡大）

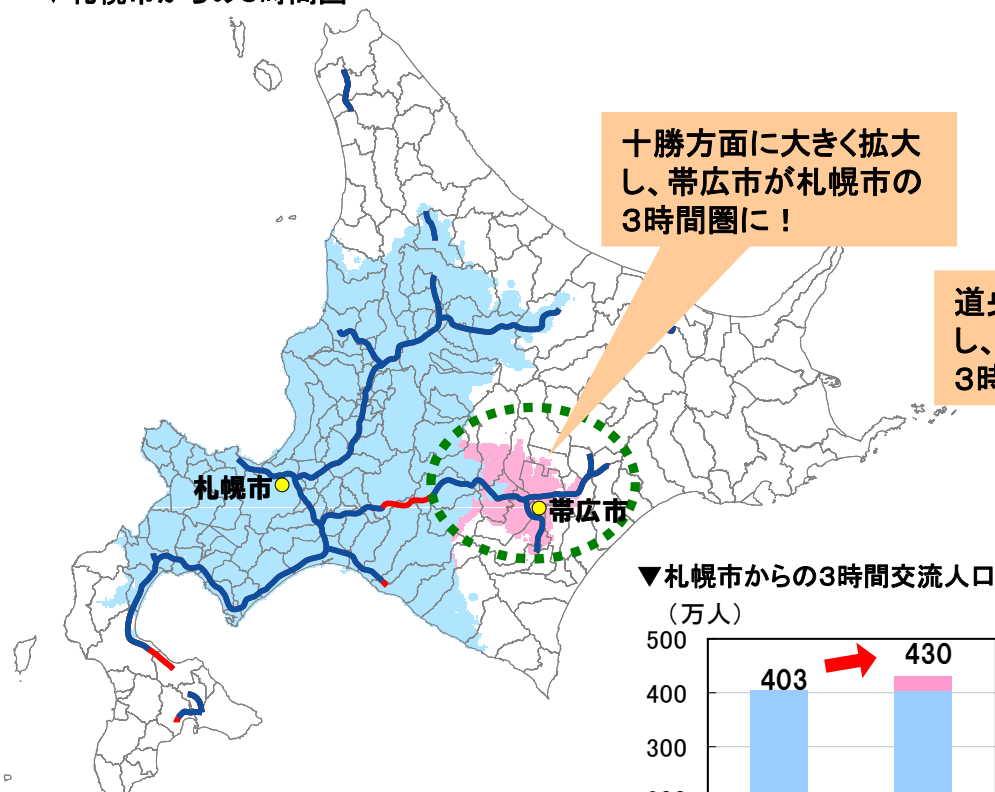
- 札幌市と帯広市を3時間で結ぶ高速ネットワークが完成。
- 帯広市からの3時間圏^{注1)}に札幌市が加わり、交流人口^{注2)}が大幅に拡大。

注1) 所要時間3時間以内で移動できる地域で、日帰り行動の目安として用いた

注2) その地域に日帰り(3時間)で訪れることのできる人口

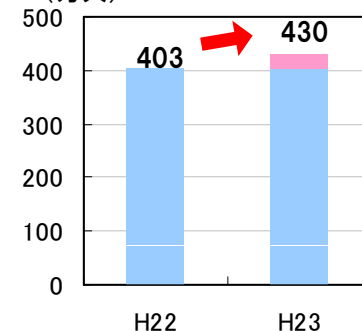
または、その地域の人が日帰り(3時間)で会うことのできる圏域人口

▼札幌市からの3時間圏

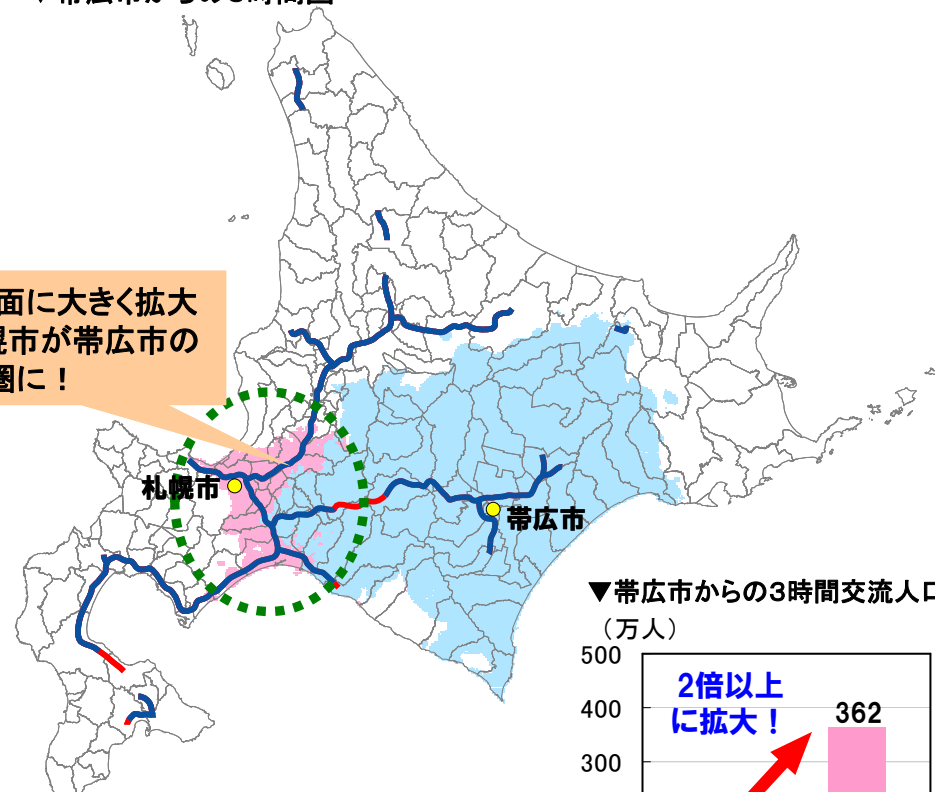


▼札幌市からの3時間交流人口

(万人)

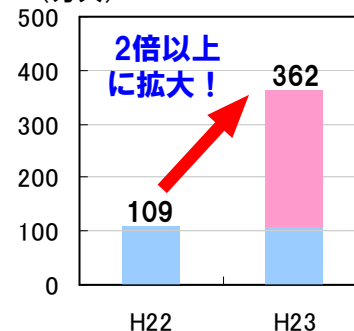


▼帯広市からの3時間圏



▼帯広市からの3時間交流人口

(万人)



- H22年度までに3時間圏の地域
- H23年度に3時間圏に入った地域
- カバー圏外

高規格幹線道路

- 平成22年度までの開通区間
- 平成23年度の開通区間

※3時間圏は、一定の経度、緯度にて地域を網の目状に区画した標準地域メッシュ・システムのうち、地域を1km四方で区画した3次メッシュを用いて図示

II 安全安心の向上(効果①) リダンダンシーの確保

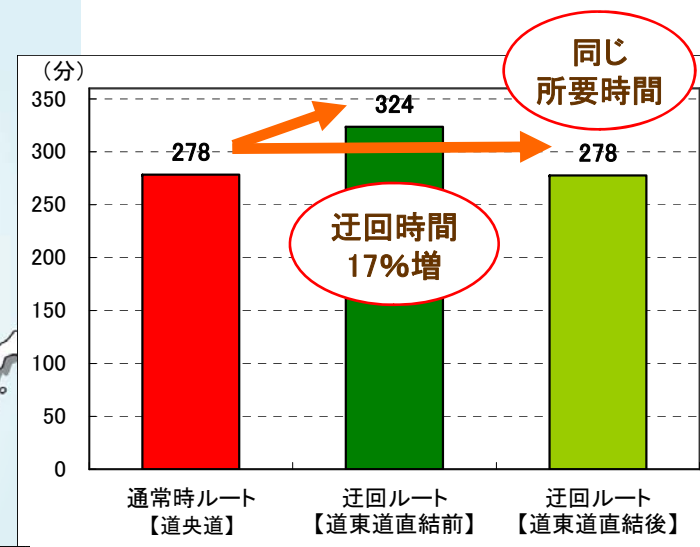
- 平成24年2月の空知・石狩地域を襲った豪雪では、道央自動車道で通行止めが発生。
- 道東圏～道央圏の物流ルートでは、道東道が代替ルートとして機能。

▼北見圏～道央圏間の物流における通常時及び迂回ルートの状況



▼通常時及び迂回ルートの所要時間

・北見市～新千歳空港間



資料: H22道路交通センサス(国土交通省)

声

◆物流事業者の声

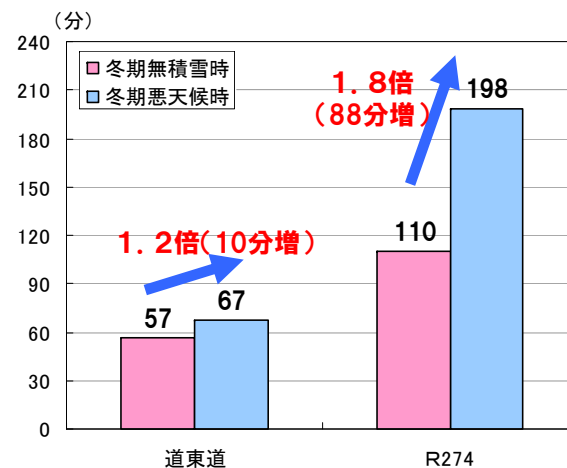
- ・新千歳空港間の輸送において、道東道直結後は、道東道を迂回しても所要時間が変わらなくなりました。そのため、道央道が通行止めとなった場合でも、道東道を利用するルートに変更することで通常のスケジュール通り配送できました。
- ・また、新千歳空港に向かう際も道東道を利用するルートに変更し、通常通り予定した飛行機に間に合うことができました。

II 安全安心の向上(効果②) 定時性の確保

○道東自動車道の開通によって、夕張～十勝清水間の冬期悪天候時の定時性を確保。



▼夕張～十勝清水間の所要時間変化



	冬期無積雪時 所要時間(分) A	冬期悪天候時 所要時間(分) B	差 (分)	倍率 B/A
道東道	57	67	10	1.2倍
R274	110	198	88	1.8倍
差 (分)	53	131	—	

※それぞれの所要時間は実走調査による。
 冬期無積雪時：H23/12/3（土）9:00～14:00
 冬期悪天候時：H24/1/15（日）8:00～12:00